

第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人九州工業大学

1 全体評価

九州工業大学は、開学以来の理念である「技術に堪能なる士君子」の養成を継承し、多様化・複雑化する社会的要請に応え、産業発展に資する人材を社会に輩出するとともに、学術の高度化と新技術の創出に貢献する工学系総合大学を目指している。第3期中期目標期間においては、海外大学等との連携を深めグローバル時代に相応しい大学の機能強化を行い、技術の革新や社会変化にも対応できる高度な専門力と豊かな教養を備えたグローバル・エンジニアを養成するとともに、研究力を高め地域及び我が国の産業の国際競争力を強化する新技術と新産業分野（イノベーション）の創出に寄与すること等を基本的な目標としている。

中期目標期間の業務実績の状況及び主な特記事項については以下のとおりである。

	顕著な成果	上回る成果	達成	おおむね達成	不十分	重大な改善
教育研究						
教育			○			
研究		○				
社会連携			○			
その他	○					
業務運営			○			
財務内容			○			
自己点検評価		○				
その他業務			○			

（教育研究等の質の向上）

グローバルに活躍する技術者に求められるコンピテンシー（GCE:Global Competency for Engineer）の5つの要素（多様な文化の受容、コミュニケーション力、自律的学習力、課題発見・解決力、デザイン力）を定め、その育成を目的として、5つの柱（海外学習体験（Study Abroad）、海外就業体験（Work Abroad）、グローバル教養教育、語学教育、留学生との協働学習）を定めたGCE教育を推進している。また、海外教育研究拠点（MSSC）において、マレーシア・プトラ大学との連携強化が著しく発展しており、学生の派遣・受け入れや、国際共著論文が大幅に増加するとともに、交流協定校との交流・連携状況に関して6分野・11カテゴリー・56項目に及ぶ徹底した実績調査を毎年実施し、実態のない交流協定校は整理し、交流が活発な協定校との活動には組織的な経費支援を行う等、国際展開を成長させている。

（業務運営・財務内容等）

職種やキャンパスを越えたコミュニケーションを活性化し、個人のスキル向上や若手ならではの視点で大学改革に取り組むことを目的に、40歳未満の若手教職員（教育職員、

74 九州工業大学

事務職員、技術職員)によって構成される「若手工学アカデミー」や、全学的な課題の解決を図るとともに、担当業務外の業務に志願しワンランク上の仕事に取り組むことで成長を促す仕組みであるジョブチャレンジ事業、重要度の高い任務に対応するため「タスクフォースチーム」など、人材育成や若手職員を中心とした教職協働に取り組んでいる。また、研究分野を超えた公平な評価を目指して開発した、正規化指標群「SURE-Metrics」による正規化論文数・正規化被引用数を教育職員評価の評価項目や教員の研究業績評価配分経費の算定等に使用している。

2 項目別評価

I. 教育研究等の質の向上の状況

<評価結果の概況>

	顕著な 成果	上回る 成果	達成	おおむね 達成	不十分	重大な 改善事項
(I) 教育に関する目標			○			
①教育内容及び教育の成果		○				
②教育の実施体制			○			
③学生への支援			○			
④入学者選抜			○			
(II) 研究に関する目標		○				
①研究水準及び研究の成果		○				
②研究実施体制等の整備			○			
(III) 社会連携及び地域に関する 目標			○			
(IV) その他の目標	○					
①グローバル化	○					

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4項目のうち、1項目が「中期目標を上回る成果が得られている」、3項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目）

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

(理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

1-1-1 (小項目)

【判定】中期目標を達成し、優れた実績を上げている

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「グローバル・エンジニア教育の推進」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ グローバル・エンジニア教育の推進

グローバルに活躍する技術者に求められるコンピテンシー (GCE : Global Competency for Engineer) の5つの要素 (多様な文化の受容、コミュニケーション力、自律的学習力、課題発見・解決力、デザイン力) を定め、その育成を目的として、5つの柱 (海外学習体験 (Study Abroad)、海外就業体験 (Work Abroad)、グローバル教養教育、語学教育、留学生との協働学習) を定めたGCE教育を推進している。また、6年一貫教育プログラムにより、GCEの5つの能力を段階的に育成するグローバル・エンジニア (GE) 養成コースを学内外に積極的に広報し、大学院進学者に占めるコース受講者数の割合は、令和元年度には91.7%となっている。(中期計画1-1-1-1)

○ 情報工学府の産学連携による教育

需要創発コース (情報工学府) は、企業、大学、公共団体等から依頼を受け、企業等のシステム開発等と同様の過程をチームプロジェクトとして経験することで、実践的な技術力、問題解決力、コミュニケーション能力を身に付ける教育を行っている。学生とメンター教員でグループを編成し、実際の課題に対し、学生自らが要件定義、仕様書作成、プロトタイプを経て製品を作り上げ、最終的にクライアントへプレゼンテーションを行っている。(中期計画1-1-1-4)

(特色ある点)

○ 高次のアクティブ・ラーニング科目の導入

専門知識を活用した課題解決を目的として、解が一つではない問題に取り組むPBLやモノづくりの創成授業等を高次のアクティブ・ラーニング科目と定義しており、各部局において科目の導入を進めた結果、KPIに掲げる20科目を超え、令和元年度には34科目に達している。(中期計画1-1-1-3)

○ カーロボAI連携大学院の他大学との連携による教育

カーロボAI連携大学院 (生命体工学研究科) では、毎年、全国から高等専門学校生を20名程度インターンシップで受け入れ、連携大学 (北九州市立大学、早稲田大学) と共同で総合実習等を実施している。受講生からは「座学では学べない、問題点を発見しその課題を自ら解決する一連のスキームはとても貴重な経験となった」「他大学や他地域の学生と学習する機会はとても新鮮で良かった」等の意見が出ている。(中期計画1-1-1-4)

1-2教育の実施体制等に関する目標（中項目）

【評価結果】 中期目標を達成している

（理由） 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標（小項目）3項目のうち、1項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

1-2-1（小項目）

【判定】 中期目標を達成している

（理由） 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

（特色ある点）

○ 戦略的な教員配置

教育職員の採用において、機械的に退職教員の後任補充を行うのではなく、役員と部長で構成される人財活性化推進会議において、全学的な戦略に基づく教育職員の採用、全学的な人材配置の最適化の視点からの検討に基づく部局間異動を実施している。

（中期計画1-2-1-1）

○ 新型コロナウイルス感染症下の教育

新型コロナウイルス感染症による影響下においても、学生の学習機会を確保するため、遠隔教育の形態、リモート教育ツール・システム等の工夫だけでなく、教員に対するFDにも積極的に取り組んでいる。学生や教員アンケートもいち早く実施し、さらなる教育改善にフィードバックしている。また、これまでの教育実施体制等の見直しと高度化に向けての恒常的な取組やノウハウが、今回のコロナ禍での迅速で的確な対応に活かされている。さらに、遠隔授業で作成された約400科目のデジタルコンテンツを、新型コロナウイルス感染症収束後の社会人教育に活用することも計画している。

1-2-2（小項目）

【判定】 中期目標を達成している

（理由） 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

（特色ある点）

○ 学習支援の機能強化

e-learningによる学習支援サービス（Moodle）の機能強化を進めた結果、アクセス数は平成27年度の94.9万回から令和元年度には250.1万回へと約2.5倍の増加となっており、課題提出等の活動数も平成27年度の13.2万回から令和元年度には37.4万回へと約2.8倍に増加している。（中期計画1-2-2-2）

74 九州工業大学

1-2-3 (小項目)

【判定】中期目標を達成し、優れた実績を上げている

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「全学部・学科でのJABEE認定」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 全学部・学科でのJABEE認定

第2期中期目標期間に日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けた全学部、全学科の教育プログラムについて、認定の更新を実施している。新規認定年度から、途切れることなく継続して認定を受けており、第三者機関から保証された高い教育の質を維持している。(中期計画1-2-3-1)

(特色ある点)

○ 学修成果の可視化コンソーシアムの設立

教育の可視化や質保証、学生の成長に関する情報交換や議論、意見交換、相互連携等を目的として「eポートフォリオによる学修成果の可視化コンソーシアム」を発起人として設立し、令和元年度時点で13教育機関、4企業が参加している。(中期計画1-2-3-3)

1-3学生への支援に関する目標 (中項目)

【評価結果】中期目標を達成している

(理由) 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

1-3-1 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 海外派遣での学修成果の可視化

GCE教育の取組の中でも特に注力している学生の海外派遣について、その学修成果を可視化するため、GCEポートフォリオシステムを開発・導入している。海外派遣の特色である、事前教育、海外派遣、成果報告、事後教育まで一連のパッケージ化された教育プログラムに則して、その学修成果を可視化している。(中期計画1-3-1-1)

○ ポートフォリオシステムによる学習支援

ポートフォリオシステムを導入し、学生に学修プロセスの振り返りを促す機会を増やしている。学修自己評価システムについて有用な利用方法を学内に周知し、同システムから授業評価アンケートを回答できるよう改修・試行したり、学生プロジェクト等の正課外活動の目標設定や振り返りを記録するよう改修し、正課教育、正課外教育及び課外活動等の大学生生活全般を記録するシステムへ発展させている。(中期計画1-3-1-1)

1-3-2 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 学生プロジェクトの推進

学生が正課教育で学んだ知識やスキルを活用して取り組む正課外のプロジェクトに対し、大学が資金を支援する学生プロジェクト制度を実施している。大学の資金だけでなく、企業4社から、平成28年度から令和元年度までの4年間に総額約1,200万円の寄附を得ており、プロジェクトに取り組む学生団体に支援を実施している。(中期計画1-3-2-2)

○ クラウドファンディングの環境整備

令和元年度に、クラウドファンディングの環境を整備し、学生プロジェクトに取り組む2つの学生団体が、クラウドファンディングで寄附募集を行い、目標金額の2倍以上の寄附を得ている。(中期計画1-3-2-2)

1-4 入学者選抜に関する目標 (中項目)

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

1-4-1 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

＜特記すべき点＞

（優れた点）

○ 多面的な評価を取り入れた入学者選抜の導入

学びの振り返り、課題解決型記述試験、学びの計画書など、6種の手法を組み合わせた多面的な評価を取り入れた「総合型選抜Ⅰ」を令和2年度から導入している。この取り組みは、探究的な活動を通じて身につく能力・資質等の評価を適切に活用しているグッドプラクティスとして、内閣府の総合科学技術・イノベーション会議が令和4年4月に発行する大学入試の事例集に掲載されることとなった。（中期計画1-4-1-2）

（特色ある点）

○ 総合型入試の導入

令和元年度学部入試からAO入試（令和3年度入学者選抜より「総合型選抜Ⅱ」に名称変更予定）を導入し、卒業生らの協力のもと、大学入試センター試験成績により理科・数学の基礎学力を担保した上で、他者との協働のプロセスを見る「グループワーク」、既存の知識を元に問題解決に向けて応用する力を見る「課題解決型記述問題」、自らのこれまでを客観視して入学後の学びへとつなげる態度を評価する「高校入学後の活動に関する記述」等を実施している。（中期計画1-4-1-2）

○ 学生募集活動の改善

学生募集活動では模試データ等も活用し、受験生の動向からの志願予測に基づき、早期に学生募集活動に反映させることが可能となっており、平成28年度入試時点で3.2倍であった志願倍率は令和元年度入試時点で3.7倍に上昇している。（中期計画1-4-1-3）

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標を上回る成果が得られている

(理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標(中項目)2項目のうち、1項目が「中期目標を上回る成果が得られている」、1項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果(研究)を加算・減算して総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

2-1 研究水準及び研究の成果等に関する目標(中項目)

【評価結果】中期目標を上回る成果が得られている

(理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

2-1-1 (小項目)

【判定】中期目標を達成し、優れた実績を上げている

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「ネットワーク活用による国際共著論文の増加」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ ネットワーク活用による国際共著論文の増加

マレーシアに設置した海外教育研究拠点(MSSC)や海外研究機関との交流ネットワークを活用し、ジョイントリサーチ・プログラム、継続的な国際合同シンポジウム等の開催、海外の研究機関に在籍する卒業生との連携支援、英文校正、論文掲載費補助支援等を実施した結果、国際共著論文は令和元年度には平成27年度比170%となる268件に増加している。(中期計画2-1-1-2)

(特色ある点)

○ 産学共同研究の推進

産学共同研究の新たな制度として、共同研究講座制度と学術指導制度を導入している。大型の共同研究である共同研究講座等は令和元年度までに11件設置されている。学術指導制度も共同研究等に移行する前の技術指導やコンサルティングとして年々増加している。(中期計画2-1-1-1)

74 九州工業大学

○ 新型コロナウイルス感染症に係る研究

新型コロナウイルス感染症に関連した研究として、AIデータサイエンスを活用した既存薬の他病気への効果予測や、ウイルスを減少させる光触媒の研究に取り組んでおり、新型コロナウイルスへの効果も含め、さらに研究を進化させようとしている。

2-2研究実施体制等に関する目標（中項目）

【評価結果】 中期目標を達成している

（理由） 「研究実施体制に関する目標」に係る中期目標（小項目）が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

2-2-1（小項目）

【判定】 中期目標を達成している

（理由） 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

（特色ある点）

○ 地方大学・地域産業創生交付金事業の実施

北九州市等と連携したプロジェクトが内閣府「地方大学・地域産業創生交付金」の事業に採択され、人工知能及びロボティクス分野における世界的な権威や、米国西海岸でのロボットベンチャー企業の起業者など、国際的にも著名な人材を招へいしている。

（中期計画2-2-1-1）

○ SURE-Metricsを活用した予算配分

九州工業大学が開発した研究分野ごとに異なる論文生産性を考慮した分野別補正を行うSURE-Metricsを活用した評価により、各教育職員の論文数に応じた研究費予算の配分を実施している。（中期計画2-2-1-4）

○ マルチスケール化学による革新的光エネルギー・物質変換材料の創製ユニットの研究成果

令和2年度に製品化された光触媒コーティング剤スプレーは、新型コロナウイルスの不活化にも高い効果を発揮することが実証試験で明らかとなり、多くの自治体や企業等で採用されている。また、本製品に組み込まれた技術は、一般社団法人減災サステナブル技術協会の「防災・減災×サステナブル大賞」のグローバル賞優秀賞を受賞している。（中期計画2-2-1-3）

(Ⅲ) 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目) 2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

3-1-1 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 社会人学び直しプログラムの開講

保有する技術や知見を生かして、デバイス設計、金型、ブロックチェーン、データサイエンスなど、社会のニーズに即した社会人学び直しプログラムを実施しており、情報工学部では、近年ニーズが高まっているブロックチェーンの基礎技術セミナーを地元IT企業等から講師を招いて開催する等、地域企業も参加している。(中期計画3-1-1-1)

○ オンライン型講座導入による受講者数の増加

マイクロ化総合技術センターでは、社会人リカレント講座の一環として、クリーンルーム内で自らの手によりMOSFET(金属酸化膜半導体電界効果トランジスタ)と簡単な論理回路を作製しながら半導体の微細加工技術の基礎を学ぶことができる「産学連携製造中核人材育成セミナー」を実施している。令和3年度には遠隔(オンライン)型の講座も導入し、対面型の講座では見ることができないアングルからの映像等を取り入れ、対面型と同等以上の教育効果が得られる内容で実施した結果、受講者が大幅に増加し、平成28年度に16万円であった受講料収入は、令和3年度には1,995万円となっている。(中期計画3-1-1-1)

74 九州工業大学

3-1-2 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 産学官連携による事業の推進

北九州市、民間企業及び公益財団法人北九州産業学術推進機構の連携による「革新的ロボットテクノロジーを活用したものづくり企業の生産性革命実現プロジェクト」が内閣府「地方大学・地域産業創生交付金」に採択され、革新的なロボットの開発・事業化、連携大学院構想などの取組を推進している。(中期計画3-1-2-2)

(Ⅳ) その他の目標

(1) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】中期目標を上回る顕著な成果が得られている

(理由) 「その他の目標」に係る中期目標(中項目)が1項目であり、当該中項目が「中期目標を上回る顕著な成果が得られている」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

4-1 グローバル化に関する目標(中項目)

【評価結果】中期目標を上回る顕著な成果が得られている

(理由) 「グローバル化に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成し、特筆すべき実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

4-1-1 (小項目)

【判定】中期目標を達成し、特筆すべき実績を上げている

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「国際的な教育研究連携の高度化」、「海外派遣のプログラム整備と派遣者数の好実績」が優れた点として認められるなど「特筆すべき実績」が認められる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ マレーシア・プトラ大学との連携強化

海外教育研究拠点(MSSC)において、マレーシア・プトラ大学との連携強化が著しく発展しており、平成28年から令和元年の学生交流は派遣・受入れを合わせて約780名となり、共同研究においては、平成28年から令和元年の4年間に110編以上の国際共著論文を発表しており、平均FWCIは1.16(令和2年7月現在)となっている。(中期計画4-1-1-1)

○ 国際的な教育研究連携の高度化

約150校の全交流協定校との交流・連携状況に関して、6分野・11カテゴリー・56項目に及ぶ徹底した実績調査を毎年実施しており、連携実態のない交流協定校の整理を継続的に行いつつ、交流・連携が活発な協定校及び活発になる可能性が高い協定校との活動には組織的な経費支援を行い、国際展開を成長させている。(中期計画4-1-1-1)

74 九州工業大学

○ 海外派遣のプログラム整備と派遣者数の好実績

海外派遣プログラムの整備と広報、経済支援等の促進策の実施により海外派遣者数は年々増加し、日本人学生に占める海外派遣学生の割合は、「国立大学における教育の国際化の更なる推進について」フォローアップ調査によると、平成29年度実績において国立大学3位、平成30年度実績において国立大学4位となっている。(中期計画4-1-1-2)

(特色ある点)

○ 海外派遣の推進

GCEの5つの要素を涵養するための5つの柱のうち、「海外学習体験 (Study Abroad)」及び「海外就業体験 (Work Abroad)」について、学生の学年や専門分野に応じ、多層的なプログラムとして整備して実施している。Study Abroadでは、平成28年度に海外未渡航あるいは海外派遣プログラム未参加の学生を対象としたFirst Stepプログラムを開発・実施し、平成29年度からは更に大学院生を対象としたプログラムを開発・実施している。また、Work Abroadでは、海外の日系企業での海外インターンシッププログラムを実施している。(中期計画4-1-1-2)

○ 留学生受入の推進

英語のみで修了可能なコースの設置、シラバスの英語化により、留学生の受入体制が整備されるとともに、短期受入プログラムの拡充、モンゴル工学系高等教育支援事業 (MJEED) やアフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ (ABEイニシアティブ)、ダブルディグリープログラム (DDP) を活用した正規生の受入を推進しており、留学生の受入促進のためのプロモーション活動やリクルーティングも継続した結果、海外からの受入学生数を第2期中期目標期間最終年度と比較して25%以上増加させる目標に対して、第2期中期目標期間末の457名から令和元年度には717名と56%の増加となっている。(中期計画4-1-1-3)

Ⅱ. 業務運営・財務内容等の状況

＜評価結果の概況＞	顕著な 成果	上回る 成果	達成	おおむね 達成	不十分	重大な 改善
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供		○				
(4) その他業務運営			○			

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標
①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化
【評定】中期目標を達成している
(理由) 中期計画の記載8事項全てが「中期計画を上回って実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。「(戦略性が高く意欲的な目標・計画)に認定された計画(1事項)についてはプロセスや内容等も評価)」
＜特記すべき点＞ (優れた点)
○「若手工学アカデミー」の実施
職種やキャンパスを越えたコミュニケーションを活性化し、個人のスキル向上や若手ならではの視点で大学改革に取り組むことを目的に、40歳未満の若手教職員(教育職員、事務職員、技術職員)によって構成される「若手工学アカデミー」を令和2年度に設置している。令和2年度には、「2040年の九工大を考える」として、2040年に在籍していると考えられる若手職員が将来ビジョンの策定にコミットすることを目的としたワールドカフェ形式のワークショップを実施したほか、令和3年度には「若手工学アカデミーグラント」を設立し、教職員や学生の垣根を超えた大学全体の活性化を図る8つのプロジェクトに総額360万円の支援を行っている。
○ 職員の知識・能力の向上
全学的な課題の解決を図るとともに、担当業務外の業務に志願しワンランク上の仕事に取り組むことで成長を促すジョブチャレンジ事業を実施しており、令和4年3月時点で60名の事務職員及び技術職員が参加している。国際化支援チームにおいては、国際業務が専門ではないスタッフが国際担当部署の指示の下で、外国人研究者や留学生の受入れ、日本人学生の海外派遣支援等の活動を行うことで、国際感覚と語学力の向上を図るなど、複数のジョブチャレンジ事業が進捗しており、参加者のうち若手が課長に抜擢されるなどの成果が現れている。さらに、令和2年度からは、一部の事業において、より重要度の高い任務に対応するため、「タスクフォースチーム」が新設されており、令和4年3月時点で59名の事務職員及び技術職員が参加している。

○ グローバル・エンジニア教育推進のための教養教育院の設置

教養教育組織を統合した教養教育院を設置し、全学統一の教養教育カリキュラムに改定するとともに、グローバル・エンジニアに必要な能力（GCE）教育推進のためのグローバル教養科目の充実等を実施することで、教育の国際化に貢献している。これらの結果として、令和元年度における海外からの受入学生数は平成27年度に比して、56.9%増加しているほか、海外への学生派遣数は平成28年度に比して36.6%増加している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制

【評定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の記載3事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 外部資金の獲得に関する取組

研究シーズの発信及び産業界のニーズと大学のシーズのマッチングを積極的に行い、「組織」対「組織」の大型共同研究である共同研究講座がこれまでに11件設置されているほか、学術指導制度により、企業等から依頼を受けて大学教員が専門知識に基づく助言・講習等を行うなど産学連携を強力に推進している。これらの取組により、第3期中期目標期間における外部資金比率（共同研究）が6.2%（第2期中期目標期間平均額より3億9,484万円増）となっている。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期目標を上回る成果が得られている

(理由) 中期計画の記載2事項全てが「中期計画を上回って実施している」と認められるとともに、一定以上の優れた点があること等を総合的に勘案したことによる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 分野間補正法「SURE-Metrics」を使用した教育職員評価の実施

研究分野を超えた公平な評価を目指して開発した、正規化指標群「SURE-Metrics」による正規化論文数・正規化被引用数を教育職員評価の評価項目や教員の研究業績評価配分経費の算定等に使用している。工学系だけではなく、人文社会系も含む幅広い分野で精度良く正規化を行えるよう、他大学のデータも活用し各専門分野における論文発表件数に対して分野間補正を行うことで研究者のパフォーマンスを客観的に測ることができる仕組みであり、参加する大学の規模は導入時より規模を拡大し、令和3年度には33大学のデータを活用して正規化を行っている。

○ 多様な分野の企業と連携した広報活動や人材育成の取組

他分野の企業との連携を強化し、(株)博多大丸福岡天神店でのコラボイベント(サイエンスカフェ、プログラミング教室等)を開催しているほか、(株)RKB毎日放送と連携協定を締結し、福岡県の大学の学生・研究者にスポットをあてたテレビ番組(発掘ゼミ!!)において、大学の研究をテーマとした放送が行われている。また、(株)QTnet、九州工業大学生協同組合と連携した無人店舗「con-tech」の設置や(株)スターフライヤーとの学生の海外研修での連携等広報・人材育成等の場面で、多彩な企業と連携を行っている。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用 ②安全管理 ③法令遵守 ④男女共同参画

【評定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の記載10事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 男女共同参画に向けた取組

男女共同参画を推進するために、学長特別補佐(男女共同参画担当)や「男女共同参画推進室」を新設し、出産・子育て・介護を行っている教員等を対象とした在宅勤務制度の創設や「支援研究員配置支援事業」の拡充を実施したほか、女性限定公募や上位職への女性の積極的登用を行っており、平成29年度に選定された「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」の中間評価において、唯一のS評価を受けている。